

EM家庭菜園講座 VOL.4

比嘉教授が自ら実証!EMによる超効率・効果的なトラブル対処法。



EM開発者
比嘉 照夫 教授

1941年、沖縄県生まれ。EMの開発者。名城大学教授、国際EM技術研究所所長。琉球大学名誉教授。アジア・太平洋自然農業ネットワーク会長、(財)自然農法国際研究開発センター理事、NPO法人地球環境・共生ネットワーク会長、農林水産省・国土交通省提唱「全国花のまちづくりコンクール」審査委員長。著書に「地球を救う大変革」「甦る未来」(サンマーク出版)、「新世紀EM環境革命」(総合ユニコム)、「微生物の農業利用と環境保全」(農文協)など多数。

EMによる災害ストレス対処法 ～EM活性液とEMセラミックスが大活躍～

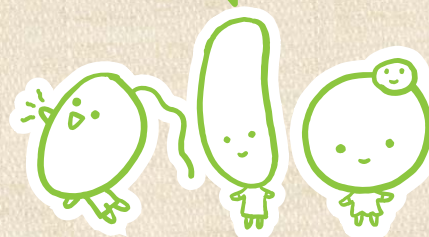
今年5月30日～31日にかけて沖縄に襲来した台風は、5月の台風としては61年ぶりの大型台風でした。最大瞬間風速は55.8m/s、東日本大震災の影になって、大きくは報道されず、あまり知られていませんが、大きな被害をもたらしました。

沖縄の葉タバコは全滅。けが人も70人位でした。風が海水を巻き上げて吹きつけ、酷い塩害で、植物はすべて茶色に変色したそうです。比嘉教授の青空宮殿も例外ではなく、酷い惨状だったそうです。

取材に訪れたのは6月17日。EMはやはり強かったんです。もちろん物理的な強風には打ち勝てなかったのですが、100段まで採る予定だったトマトやバナナは無残にもなぎ倒され、撤去されて、見る影もありませんでした。でも、そんな中、からし菜やオクラはとても元気でした。

今回は、比嘉教授に災害ストレスへのEM対処法について教えていただきました。

災害ストレスから作物を守るために、
ボクたちが大活躍!!



災害ストレスにも負けないEM対処法 in「青空宮殿」



潮風にあたって、まるで除草剤をまいたようになった青空宮殿。沖縄全体では、もっと酷い被害を受けた場所もあるそうです。災害ストレスへのEMの対処法はいたって簡単。EM活性液の50倍希釈液とEMスーパーセラ酵Cを朝と晩に散布するだけです。



からし菜にEM活性液50倍希釈液とEMスーパーセラ酵C 1/1000を混ぜて散布。台風後、すべてが茶色に変色しましたが、からし菜は、収穫できるまでに回復し、農家の人が驚くほど。比嘉教授自ら収穫していただいたのをその場で試食。酷いストレスを受けたとは思えない程、辛みが上品で、生のままでも美味しくいただきました。



オクラは台風の際に10cmの高さでしたが、その後生え直し、回復。対処法はEM活性液とEMスーパーセラ酵Cを2回、丁寧に散布。



きゅうりはたまたま草に覆われていて助かりました。地生えのきゅうりを定植しましたが、太陽の強い日はもたないので、草で日陰を作ります。もちろんEMは徹底的に使用します。



バナナは風でなぎ倒されましたが、実をつけていたものは収穫できました。バナナはストレスが強くと品種によっては種が出てくるそうです。初めてバナナの種を見ました。種をまいたら、バナナが生えてくるのでしょうか?

比嘉教授の裏技

1本の株から2個以上のキャベツをとる方法

キャベツは収穫が終わると、その株は再利用されることはありません。EMで地力をつけると、収穫後の株から2～3本の新芽を出させ、2個以上のキャベツを収穫することができます。

(この方法の取材は、台風が来る前の4月にしたものです。)

【キャベツの芯から2個目のキャベツを採る場合】



1 収穫後のキャベツの芯の脇からでる芽を2～3本残します。この段階でホカシや鶏糞などを基肥に追肥し、水やりの時には500倍希釈のEM活性液を施用します。



脇の芽から成長します



結球を始めた株



採種用の株出し1本仕立て



株出し1本仕立て